

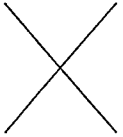
中期
28.11.26

平成二十九年 度

教科・領域教育専攻 言語系コース (国語)

試験問題表紙

解答上の注意

1. 表紙一枚、問題用紙五枚、解答用紙四枚があるかどうかを確認すること。
2. 国語科教育(問題一)・国語学(問題二)・近代文学(問題三)・古典文学(問題四)の四分野のうちから一分野を選択し、解答すること。
3. 「日本語教育」分野志望者は、必ず「問題二」を選択すること。
4. 選択した分野を、解答用紙(その一)にある選択受験分野表の選択分野欄に○印を入れて示すこと。
5. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入すること。
選択しない問題の解答用紙には、用紙全面に「」を大きく表示すること。
6. すべての解答用紙の受験番号欄に受験番号を必ず記入すること。
7. 試験終了後は解答用紙のみを回収するので、解答用紙以外は、すべて持ち帰ること。

教科・領域教育専攻 言語系コース (国語)
試験問題 (国語科教育) 問題用紙全五枚 (その一)

問題一 次の【A】【B】の二つの文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【A】

著作権の関係により掲載いたしません

教科・領域教育専攻 言語系コース (国語)
試験問題 (国語科教育) 問題用紙全五枚 (その二)

問一 傍線部で、筆者は「慣用句・ことわざ・故事成語」は「伝統的な言語文化」の側面を持っていると述べているが、なぜそう言えるのか。【B】を参照して説明しなさい。

問二 次のア～カは、「慣用句」「ことわざ」「故事成語」「いずれでもない」のどれにあたるか、解答用紙の所定の欄に記号で答えなさい。

- ア 一進一退
- イ 鼻にかける
- ウ 五十歩百歩
- エ 二の足を踏む
- オ きじも鳴かずば打たれまい
- カ 天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず

著作権の関係により掲載いたしません

問三 筆者の提言を踏まえて、「慣用句・ことわざ・故事成語」のいずれかを扱った学習指導(二つ以上を組み合わせて扱うことも可)を全二時で考え、各時の概要を述べなさい。校種、学年は問わない。解答欄に、対象とする校種と学年を記入すること。

著作権の関係により掲載いたしません

※「日本語教育」分野志望者は、この問題を選択してください。

問題二 次の問いに答えなさい。

問一 次の(ア)～(エ)の四つの語句の中から二つを選び、それぞれ説明しなさい。選択した語句は、記号を解答用紙に記しなさい。

(ア) 万葉仮名

(イ) 体言止め

(ウ) 和製英語

(エ) フォリナー・トーク

問二 次の二つの問いに答えなさい。

① 日本語の「うれしい」と「たのしい」の意味の違いを、具体例を挙げて説明しなさい。

② 日本語の母音について、知るところを述べなさい。

問三 ことばの教育において、「話しことば」と「書きことば」の違いをどのように扱うべきか。あなたの考える「文体(スタイル)の教育のあり方」について、国語科教育または日本語教育の立場から具体的に論じなさい。

教科・領域教育専攻 言語系コース（国語）
試験問題（近代文学） 問題用紙全五枚（その四）

問題三 近代文学に関する次の問いに答えなさい。

問一 次の物語の「語り手」について分析しなさい。

著作権の関係により掲載いたしません

問二 次の事項の中から二つを選択し、日本文学史および国文学研究の歴史を踏まえて具体的に説明しなさい。なお、選択した事項の番号を解答欄の上部に記すこと。

- ① 視点
- ② 雑誌『文学界』
- ③ 新感覺派
- ④ カルチュラル・スタディーズ
- ⑤ 宮沢賢治とその文学

教科・領域教育専攻 言語系コース（国語）
試験問題（古典文学） 問題用紙全五枚（その五）

問題四 次の文章は『和泉式部日記』の一節で、受領の妻であった女（のちの和泉式部）に、宮（敦道親王）が密かに通い始めて数ヶ月後のある夜の場面です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

かくて、二三日おともせさせたまはず。頼もしげにのたまはせしことも、いかになりぬるにかと思ひつづくるに、寝も寝られず。目もさまして寝たるに、夜やうやうふけぬらむかしと思ふに、門をうちたたく。あなおぼえなど思へど、問はずれば、宮の御文なりけり。思ひがけぬほどなるを、「心や行きて」とあはれにおぼえて、妻戸押し開けて見れば、

①見るや君さ夜うちふけて山の端にくまなくすめる秋の夜の月
うちながめられて、つねよりもあはれにおぼゆ。門も開けねば、御使待ち遠にや思ふらむとて、御返し、

②ふけぬらむと思ふものから寝られねどなかなかなれば月はしも見ず
とあるを、おしたがへたる心地して、「なほ口惜しくはあらずかし。いかで近くて、かかるはかなしごととも言はせて聞かむ」とおぼし立つ。

二日ばかりありて、女車のさまにてやをらおはしましぬ。昼などはまだ御覽ぜねば、恥づかしけれど、さまあしう恥ぢ隠るべきにもあらず。またのたまふさまにもあらば、恥ぢきこえさせてやはあらむずるとて、るざり出でぬ。

（新編日本古典文学全集『和泉式部日記 紫式部日記 更級日記 讃岐典侍日記』

へ一九九四年、小学館）より一部改変）

〔注〕

○頼もしげにのたまはせしこと……宮が女に召人として宮邸に参るよう強く誘ったこと。
○はかなしごと……とりとめもない和歌。

問一 ①の宮の和歌を口語訳しなさい。

問二 ②の女の和歌を口語訳しなさい。また、それに対して宮はどのような反応をしたのか、本文全体を踏まえて説明しなさい。

問三 傍線部を口語訳しなさい。また、なぜ女はそう思ったのか、本文全体を踏まえて説明しなさい。

問四 文学史における和泉式部の位置づけについて、具体的に作品名を挙げつつ、知るところを述べなさい。

問五 和泉式部は、のちに藤原彰子（道長女・一条天皇中宮）に女房として出仕しているが、この彰子周辺で作られた文学作品について、具体的名称を挙げながら知るところを述べなさい。